

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html> )

マイライブラリー:0200

(注)本稿は 2011 年 9 月 15 日から 22 日までの4回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2011.9.22  
前田 高行

## ENA(中東・北アフリカ)22カ国の「世界競争力ランキング」(2011-2012 年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その15)

目次	頁
1. 「世界競争力レポート」について	1
2. MENA18カ国の世界競争力ランキング	2
3. 過去 5 年の順位の推移	
3-1 MENA 域内の順位の変遷	2
3-2 主要3カ国と米日中の世界ランクの比較	3
4. MENAの分野別競争力	
4-1. 分野別競争力	4
4-2. 主要国の分野別競争力(レーダーチャート)	6

東はアフガニスタンから西はモーリタニアまでの MENA(中東・北アフリカ)22カ国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。

第15回のランキングは、「世界経済フォーラム」(World Economic Forum, 略称 WEF)が発表した「Global Competitiveness Report 2011-2012」(世界競争力レポート)について MENA 諸国をとりあげて比較しました。

\* WEF ホームページ:

<http://reports.weforum.org/global-competitiveness-2011-2012/>

### 1. 「世界競争力レポート」について

「世界競争力レポート(Global Competitiveness Report)」は、毎冬スイスで開催される「ダボス会議」の主催者として世界に名を知られている「世界経済フォーラム」が2001年から毎年発表しているレポートであり今回で第11回目となる。第1回レポートの対象国は75カ国であったが、その後対

象国は増え今回は142カ国となっている。MENA については今回新たにレバノンとイエメンが加わる一方リビアが対象外となっており、評価対象国の数は昨年より1カ国多い18カ国となっている。リビアの他イラク、スーダン、アフガニスタンが評価対象外である。

このランキングは、一般に入手可能な公表データと、WEF が報告対象各国の提携機関とのネットワークで行っている包括的年次調査「エグゼクティブ意見調査」の結果から算出されている。ちなみに日本の提携機関は慶応大学(協力:経済同友会)である<sup>1</sup>。

「世界競争力レポート」の総合的な競争力ランキングはコロンビア大学のザビエル・サラ＝イ＝マーティン教授が開発し2004年に導入された世界競争力指数(Global Competitiveness Index, GCI)が用いられている。GCIは競争力に関する12の分野をもとに設計されており、世界の国々のすべての発展段階における競争力の全体像を示している。12分野とは、①制度機構(Institutions)、②インフラ(Infrastructure)、③マクロ経済の安定(Macroeconomic stability)、④保健および初等教育(Health and primary education)、⑤高等教育及び訓練(Higher education and training)、⑥商品市場効率(Goods market efficiency)、⑦労働市場効率(Labor market efficiency)、⑧金融市場の洗練度(Financial market sophistication)、⑨技術的即応性(Technological readiness)、⑩市場規模(Market size)、⑪ビジネスの洗練度(Business sophistication)及び⑫イノベーション(Innovation)である。

## **2. MENA18カ国の世界競争力ランキング**

(<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-15aGci2011-2012.pdf> 参照)

2011-2012年競争力ランキングではMENA22か国のうち18カ国がランク付けされている。トップはカタールであり、142カ国中14位と世界でもトップクラスに評価されている。カタールに続くMENA の2位はサウジアラビアで世界順位17位、3位イスラエル(世界22位)、4位 UAE(同27位)である。以下30位台にオマーン(世界32位)、クウェイト(同34位)、バーレーン(同37位)の3カ国が続いている。これらMENA 上位7カ国のうち6カ国をGCC 加盟国が占めており、石油・天然ガスの富によりMENA 域内では突出した競争力を持っていることがわかる。

これに続くのがチュニジア(世界40位)、トルコ(同59位)、イラン(同62位)、ヨルダン(同71位)であり、これら11カ国が全世界142カ国中の上位グループに入っている。なお MENA18カ国の平均順位は63位であり、MENA 地域の競争力は世界平均を上回っていると言えよう。

因みに世界ランクの1位はスイスであり、これにシンガポール、スウェーデン、フィンランドが続き米国は5位、日本は9位である。その他の主な国とMENA 諸国の順位を比較すると、韓国、中国はそれぞれ世界24位と26位で UAE より上位にあり、インドはトルコよりやや上の56位、ロシア(66位)はイランとヨルダンの中間である。

## **3. 過去5年の順位の変遷**

### **3-1 MENA 域内の順位の変遷**

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-15bGci2007-2011.pdf> 参照)

第7回(2007-08年)から第11回(2011-12年)までの競争カランクの推移を見ると、MENAトップは第7、8回はイスラエルであったが第9回以降は3年連続でカタールが首位である。さらにカタールの世界順位は22位→17位→14位と着実に上昇しており、世界のトップテンが視野にはいりつつある。またサウジアラビアも躍進が著しく第7回以降の同国の世界順位は35位→27位→28位→21位→17位と毎年着実に順位を上げている。前回からはイスラエルを抜き去り MENA2位になると共に今回は世界20位以内に食い込んでいる。

UAEは第7回(2007-08年)から第9回(2009-10年)までは37位→31位→23位と急速に世界順位を上げ第9回にはカタールに次ぎ MENA2位になった。しかしその後は25位(2010-11年)→27位(2011-12年)と世界順位を下げるとともに MENA の順位も今回はカタール、サウジアラビア、イスラエルに次ぐ第4位にとどまっている。

同じ GCC 加盟国であるクウェイトは MENA の順位が2位→5位→6位→7位→6位と長期的に低迷している。またバハレーンも8位→7位→5位→8位→7位と一旦上げた順位が退潮に転じている。同国は今年国内で大規模な騒乱事件が発生、現在も治安が安定しているとは言えず、外国企業が同国から撤退若しくは事業を縮小するなどの影響が出ている。同国政府はビジネスへの影響は最小限にとどまっていると宣言しているが、その評価は急落している。次回(来年)はさらに順位を下げることも予測され同国にとって頭の痛い問題である。

オマーンの場合、過去5回の世界順位は42位→38位→41位→34位→32位である。第9回までは順位が停滞し GCC6カ国の中で最も低かったが、第10回以降は上昇傾向にあり、クウェイトを追い抜いている。このようにGCC6カ国はカタール、サウジアラビア及びオマーンが競争力を高め世界順位を上げているのに対して、UAE は停滞、クウェイト、バハレーンは低落傾向にある。

その他の国では地域の大国と目されるエジプトの世界順位は77位→81位→70位→81位→94位と最近3年間で急激に落ち込んでいる。またチュニジアの場合は32位→36位→40位→32位→40位と一旦上がりかけた順位が今年再び急落している。両国とも今年初めに長期にわたる独裁政権が倒れ、不安定な状態になったことが順位を大幅に下げた理由と考えられる。新しい政治体制により競争力を回復できるか否かは未知数である。

### **3-2 主要3カ国と米日中の世界ランクの比較**

MENA の経済大国であるサウジアラビア、トルコ、エジプトの3カ国と米国、日本、中国の過去5回の世界競争力順位を比べてみる。

(図<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-15cGci2007-2011graph.pdf> 参照)

米国は第7回(2007-08年)及び第8回(2008-09年)の順位は世界トップであったが、その後は2位→4位→5位と毎年順位を下げている。一方、日本は8位→9位→8位→6位→9位であり 2010-11年には6位まで上昇したものの、今回は再び9位に逆戻りしている。但し日米両国は順位が下落しているものの過去5年間の競争カランクは常にトップ10に入っている。

これに対しサウジアラビアと中国は第7回ランキングでは共に30位台半ば(サウジアラビア35位、中国34位)であったが、両国は2年後にはそれぞれ28位と29位にあがった。その後、サウジアラビアは既に述べた通り順位を大きく上げて今回は17位に上昇している。一方中国も毎年順位を上げているもののその足取りは緩やかであり、現在の競争力は世界26位である。

トルコとエジプトの第7回ランキングはそれぞれ53位、77位であり、エジプトは MENA の平均値と比較するとかなり下回っていた。その後エジプトの競争力は高まり第9回(2009-10年)には世界70位になり、一方トルコは61位に下がり両国は世界平均をやや下回る水準であった。しかし前回、今回とエジプトの競争力は急激に低下し今回の94位は世界の中で下位グループに転落し、一方トルコはほぼ横ばい状況である。

#### **4. MENAの分野別競争力**

冒頭に触れた通り世界競争力指数は「制度機構」から「イノベーション」まで12の分野について世界142カ国を順位付けている。

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-15dGciByPillar.pdf> 参照)

##### **4-1. 分野別競争力**

###### **(1) 制度機構(Institutions)**

MENA トップはサウジアラビアで世界順位は12位である。同国に次ぐのはカタール(世界14位)、オマーン(同16位)、バハレーン(同17位)、UAE(22位)であり、これら GCC 諸国は世界的に見ても高い水準である。但し同じ GCC 構成国でもクウェイトは世界47位であり6カ国の中では見劣りがする。

(日本:24位)

###### **(2) インフラ(Infrastructure)**

UAE は世界8位であり非常に評価が高い。これに次ぐのがサウジアラビア25位、カタール27位、オマーン28位であり、MENA 諸国の中では UAE が飛び抜けている。

(日本:15位)

###### **(3) マクロ経済の安定(Macroeconomic stability)**

クウェイトが世界2位であり、以下オマーン(3位)、カタール(5位)の3カ国が世界のベストテンに入っていることは注目に値する。また UAE(11位)、サウジアラビア(12位)がこれに続いている。これら5カ国は国家財政の大半を石油収入に依存しており、いずれも絶対君主制国家という共通点がある。これに対し世界順位の低い国はヨルダン(97位)、レバノン(125位)、エジプト(132位)など共和制国家が多くMENAにおけるマクロ経済の安定性が君主制と言う政体に依拠していることは興味深い。

(日本:113位)

(4) 保健および初等教育(Health and primary education)

この分野では世界22位のカタールが MENA トップである。これに次ぐのはバハレーン(31位)、レバノン(35位)、イスラエル(36位)である。一方、モロッコ(93位)、エジプト(96位)など世界ランクの低い国も少なくなく、MENA 諸国の間にはかなりの格差がある。

(日本:9位)

(5) 高等教育及び訓練(Higher education and training)

MENA トップはイスラエル(世界27位)である。これに次ぐのがバハレーン(同28位)、UAE(33位)、サウジアラビア(36位)である。アルジェリア(101位)、シリア(106位)、エジプト(107位)等はこの分野の順位が低い。

(日本:19位)

(6) 商品市場効率(Goods market efficiency)

この分野ではサウジアラビア、バハレーン及び UAE がそれぞれ世界4位、6位、10位であり、上記(3)と同様世界のベスト10に3カ国が入っている。その他カタール(世界17位)、オマーン(同23位)などクウェイトを除く GCC5 カ国のランクが高い。一方、シリア、イラン、エジプト、アルジェリア、など100位以下の国も多く、この分野での MENA の域内格差は大きい。

(日本:18位)

(7) 労働市場効率(Labor market efficiency)

世界19位のバハレーンが MENA トップである。カタール(22位)、イスラエル(24位)、UAE(28位)がこれに続いている。しかし MENA のこの分野における世界順位は概して低く、エジプト(141位)、イラン(139位)、アルジェリア(137位)、シリア(134位)、トルコ(133位)、モロッコ(132位)など最低ランクの国が多い。このため MENA の平均順位は91位であり12の指標の中では最も低い。

(日本:12位)

(8) 金融市場の洗練度(Financial market sophistication)

MENA ではイスラエルが最も洗練された金融市場と評価されており世界10位である。そのほかではバハレーン(世界14位)、サウジアラビア(16位)、カタール(19位)などが世界競争力の高い国とされている。

(日本:32位)

(9)技術的即応性(Technological readiness)

この分野では世界ランクは21位のイスラエルが MENA トップである。続いて UAE(世界30位)、カタール(同33位)、バーレーン(39位)が世界30位台である。一方、イラン、シリア、アルジェリア、モリタニア及びイエメンは世界100位以下である。

(日本:25位)

#### (10) 市場規模(Market size)

市場規模の競争力ランキングではトルコが17位、イラン21位、サウジアラビア23位、エジプトが27位である。この指標は人口規模と密接に関係しており、MENA の人口大国が上位に並んでいる。これに対して UAE(43位)、カタール(59位)、クウェイト(61位)などの湾岸産油国は一人当たりの購買力は高いが、人口の絶対数が少なく、市場規模の競争力は高くない。

(日本:4位)

#### (11) ビジネスの洗練度(Business sophistication)

カタールが MENA1位(世界12位)であり、これに続くのがイスラエル(16位)、サウジアラビア(17位)、UAE(23位)である。一方、イラン(92位)、シリア(94位)など経済制裁を受けている国々は、欧米の経営ノウハウの流入が遅れており、洗練度が低く競争力は見劣りすると評価されている。

(日本:1位)

#### (12) イノベーション(Innovation)

イスラエルは世界6位であり、技術先進国として評価が定着している。同国に次ぐ MENA2位はカタール(世界18位)、以下サウジアラビア(26位)、UAE(28位)であり、MENA1位のイスラエルと2位以下の格差は大きい。またエジプト、レバノン、シリアなどは100位以下であり、アラブ諸国はイノベーション分野では後進地域と見なされているようである。

(日本:4位)

### 4-2. 主要国の分野別競争力(レーダーチャート)

(図<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-15eGciRadarChart.pdf> 参照)

MENA 諸国のうち主要5カ国(エジプト、トルコ、サウジアラビア、イラン及び UAE)と日本、中国の分野別競争力を比較してみる。ここではこれら7か国を総合世界ランクが近い国同士で上位グループ(日本と UAE)、中位グループ(UAE と中国)及び下位グループ(トルコ、イラン、エジプト)の3つのグループに分け、レーダーチャート図によって各国の競争力の特徴を比較検討する。

レーダーチャート図は最も外側が世界順位1位であり内側の中心は世界150位である。また最上段の総合順位以下時計周りの1から12の数字は各分野を示している。各分野の世界順位を結ぶ輪が各国の状況である。レーダーチャートの輪が外側に広がっているほど世界での順位が高く、また輪の形が円に近いほど各分野で平均した競争力があることを示している。

まず日本(総合世界9位)とサウジアラビア(総合世界17位)を比較すると、「マクロ経済の安定性」がサウジアラビアの世界12位に対して日本は113位の低位にとどまっている。サウジアラビアが無借金体制であるのに比べ、日本は国債の対 GDP 比率が世界で最も高い 200%近くに達することが主な理由であろう。一方、「保健及び初等教育」(日本9位、サウジアラビア61位)或いは「労働市場効率」(日本12位、サウジアラビア50位)などのように人材面では日本が優れている。そして「市場規模」、「ビジネスの洗練度」、「イノベーション」は日本は世界のトップレベルにあり、サウジアラビアは20位前後にとどまっている。

次に UAE と中国を比べると総合順位は27位、26位と拮抗している。12項目のうち5項目で中国の順位は UAE を下回っているが、「市場規模」では UAE の43位に対し中国は世界2位であり大きく差が開いている。

トルコとイランとエジプトは共に7千～8千万人の人口を有する MENA の大国である。3カ国の総合ランクはトルコ59位、イラン62位、エジプト94位でありエジプトの競争力は他の2カ国より低い。「制度」、「インフラ」の面では3カ国に大きな差は無いが「マクロ経済の安定性」ではイランが27位とも最も高く、トルコ69位、エジプト132位と3カ国で大きな格差がみられる。「労働市場効率」は3カ国とも130位以下で非常に低いが、その一方「市場規模」ではいずれも世界20位前後の高いランクである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行      〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

---

<sup>1</sup> WEF レポート Partner Institute より